

防災・減災部門

応募事例名

市街地再開発事業と連携した雨水バイパス管の設置とその後の水位観測について

応募団体名)千葉市

応募事例の概要

県都千葉市の中心市街地への玄関口「JR千葉駅東口」では

近年の大雨により浸水が多発しているが、中心市街地であり、抜本的な浸水対策整備は困難な状況

老朽化した建築物の再編や、土地の高度利用の必要性



浸水対策・市街地再開発の一体的な整備
【再開発区域内に雨水バイパス管を整備】

雨水バイパス管の整備後、管渠内に水位計を常設



雨水バイパス管ルート図

(C) OpenStreetMap contributors



再開発駅前ビル

PRポイント

市単独事業区間と再開発組合との協定による事業区間に分け実施。

再開発ビルの下部にバイパス管を布設することで浸水被害軽減と、駅前の賑わい創出や利便性向上の両立ができた。

さらに、雨水バイパス管の整備後、管渠内に水位計を常設し、遠隔地からリアルタイムで管内の水位を把握可能にした。

取組みに関するエピソード

中心市街地内での事業であり、再開発組合、地元商店街、既設地下埋設管理者など多くの関係者との調整が必須でしたが、協議を重ねることにより事業を進めることが出来ました。

水位計設置は電柱等がなく受電できない場所でしたが電池式(電池交換は約1年半ごと)の機器を採用することで計測が可能となりました。今後、地元への水位情報の提供について検討していきます。

下水道施設部長
山田 裕之